

カラダのこと
おしえて!

ヘリコバクター・ピロリ菌をご存じですか？

早期のピロリ菌除菌治療で胃がん予防を

感染すると胃がん発症のリスクが高まります

胃がん発症の主な原因は、ヘリコバクター・ピロリ菌感染です。この菌に感染していない人は、胃がん発症のリスクがほとんどないことが明らかになっています。

国内のヘリコバクター・ピロリ菌感染者数は減少傾向にあります。その数は人口の約半数を占めるとされています。

早期段階での除菌治療が効果的

除菌治療による胃がん予防は、ヘリコバクター・ピロリ菌の感染によって引き起こされる胃炎があまり進行していない早期の段階で除菌するほど効果的です。

除菌治療とは、2種類の「抗菌薬」と1種類の「胃酸の分泌を抑える薬」の合計3種類の薬を7日間服用するというものです。

新たな感染者を生み出さないために

ヘリコバクター・ピロリ菌の感染経路は飲食物などを介する経口感染であり、戦後の不衛生な時期には飲料水によって感染していたものと考えられています。

しかし、衛生環境の整った現在の主な感染経路は、両親、特に、母親の口から乳幼児期の子どもの口への感染であると推測されています。

そこで、感染源となる保菌者を減少させ、新たな感染者を生み出さないためには、ヘリコバクター・ピロリ菌に感染している人は妊娠するまでにできるだけ早く除菌治療を受けておくことが有効な方法と考えられています。

除菌治療で胃がんを撲滅しましょう

胃がんは撲滅可能ながんと言われています。2013(平成25)年に「ヘリコバクター・ピロリ感染胃炎」に対する除菌治療が日本で保険適用となったことは、胃がんの撲滅に向けた世界初の施策と言われています。

当院では消化器病専門医とヘリコバクター・ピロリ菌感染症認定医が毎日診察していますのでお気軽に受診してください。(消化器・肝臓内科 光山 俊行)



【問い合わせ】 上野総合市民病院 ☎ 24-1111

防災ねっと

自主防災組織の重要性

防災対策の基本に、「自助」「共助」「公助」という言葉があります。

- 「自助」とは
自分の命は自分で守ること
- 「共助」とは
地域住民が協力してお互いを守ること
- 「公助」とは
行政が防災対策・救援・支援を実施すること

これら3つがうまく連携することで防災や減災につながります。今回は、共助の中心を担う自主防災組織について説明します。

住民同士の協力・連携で災害から地域を守ります

自主防災組織とは、地域住民が協力・連携し、災害から自分たちの地域を自分たちで守るために活動することを目的とした組織です。

日頃は、防災知識の普及啓発、防災訓練や地域の防

災安全点検といった活動に取り組んでいます。災害時は、負傷者の救出や救護、住民の避難誘導、避難所の運営などに従事します。

災害時こそ、自主防災組織は必要不可欠です

阪神・淡路大震災では、家屋の倒壊による生き埋めや建物などに閉じ込められた人のうち、約95%は自力または家族や隣人に救助されたというデータがあり、その地域住民の連携による活動の中心的な役割を担う自主防災組織が必要不可欠といえます。

災害に備えるために自主防災組織の育成強化に取り組んでいきましょう。

※平成28年度から、自主防災組織に関する担当課がこれまでの消防本部消防救急課から総合危機管理課に変更になりました。

【問い合わせ】

総合危機管理課

☎ 22-9640 FAX 24-0444



伊賀警察署だより



水難事故・山岳遭難にあわないために

これから本格的な夏を迎え、海水浴やマリンスポーツ、登山などを楽しむ機会が増えてきます。

これに伴い、水難事故や山岳遭難事故が増えることが予想されます。このような事故にあわないために、次のことを心がけましょう。

◆海や河川に遊びに行くとき

- 子どもたちから目を離さない
- マリンスポーツや釣りをするときは必ずライフジャケット（救命胴衣）を着用する

◆登山をするとき

- 自分の体力や経験に応じた山やコースを選ぶ
 - 登山計画を家族に知らせておき、登山計画書を所属山岳会や警察署などへ提出してから登る
 - 十分な装備を携行し、決して軽装では登らない
- いずれにおいても、体調の悪いときを避け、天候には十分注意し、無理のない計画を立てましょう。

【問い合わせ】 伊賀警察署 ☎ 21-0110
名張警察署 ☎ 62-0110

公共交通を利用しましょう

公共交通の利用促進で、魅力ある「まち」へ

皆さんが、引越しや新築などをしてどこで暮らすかを考えるとき、公共交通の利便性が重要な条件になるのではないのでしょうか。

市は、伊賀市への移住促進に取り組んでいますが、住みたく魅力ある「まち」には公共交通の存在が欠かせません。ところが、市内での公共交通の利用者数は年々減少しており、このままでは、減便や路線の縮小などで現在のサービス水準を維持することが難しくなる場合もあります。

そのため、市では、公共交通利用促進のための「ワンモア運動」を継続して行っています。公共交通を週1回利用している人は週2回に、月に2回利用している人は月3回に、全く利用しない人はまず年に1回公共交通を利用してみませんか。公共交通を守り、魅力ある「まち」にするため、皆さんのご協力をお願いします。

【問い合わせ】 交通政策課
☎ 22-9663 FAX 22-9852

～7・8・9月～
公共交通機関
利用促進期間

明日に向かって ～差別をなくしていくために～

人権について考えるコラムです。

人を傷つける言葉をなくしていこう —学校教育課—

最近、子どもたちの会話の中に人を傷つける言葉が何気なく使われていること、特に外国人や外国にルーツを持つ人、さまざまな障がいのある人を傷つける言葉が少なからず含まれているということが、学校からの報告でわかってきました。これらの言葉は、言われた人だけでなく、言われた人の背景にいる多くの人たちまで傷つけて、差別してしまう言葉です。

ところで、どこでその言葉を知ったのかを子どもたちに聞いてみると、「大人が使っているのを聞いた」「インターネットで知った」という回答が多くありました。そして、子どもたちはその言葉の意味や差別性を知らないまま身に付けたということもわかってきました。意味もわからずに使ってしまう、そんな意図がなくても、人を傷つける側、差別する側になってしまっているのです。

学校では、人を傷つける言葉をあえて伝え、学

習していく取り組みを進めています。これらの言葉を知らない子にも教えることにはなりますが、「この言葉は人を傷つけるから、使わないようにしよう。もし、あなたのまわりで使っている人を見かけたら注意しよう。」という教え方をしています。正しく学ぶことで、人を傷つける言葉をみんなでもなくしていこうとしています。

子どもたちは学習を重ねる中で、人を傷つける言葉を聞いたときに、「その言葉は使ったらあかんやん。みんなで勉強したやろ。」と声をかけるなど、おかしいと気づき、行動できることが増えてきました。

子どもは社会を映し出す鏡だと言われます。この取り組みは学校の中だけでなく、保護者や地域の皆さんにも理解していただき、子どもたちの周囲の大人が人を傷つける言葉を使わないことが大切だと考えています。

■ご意見などは人権政策・男女共同参画課 ☎ 47-1286 FAX 47-1288 ✉ jinken-danjo@city.iga.lg.jp へ